



邦楽演奏と揮毫パフォーマンス

第56回宮城県芸術祭の開幕を彩るテーマイベント「結い〜次代へ〜」が9月22日、仙台市青葉区のせんだいメディアテーク一階のオープンスクエアで開かれた。「結い」シリーズ第3弾。

新時代、重厚に軽やかに

「結い〜次代へ〜」、コラボで表現

テーマイベント第3弾、好評

はなやま

公益社団法人
宮城県芸術協会

(郵便番号 980-0802)

仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B

電話 (022) 261-7055

FAX (022) 214-5184

E-mail: miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp

発行者 雫石隆子

題号の背後にある芸協のシンボルマーク「雲」は、様々な分野の芸術家達がふんわり集まり、巻雲のように盛り上がりつつ纏まった姿を表す。創設当初の理事安倍郁二氏によるデザイン。

一昨年から回を重ねて、各々がコラボレーションしたライブパフォーマンスの完成度は高まり、令和の新時代を踏まえつつ趣向を凝らした渾身の舞台が会場者らを魅了した。

今回は8部門が結集、総合芸術の一つの到達点を示した。オープニングは邦楽部(長唄)演奏をバックに、工芸部提供の大型花器を秋色の花で飾る華道部による生け花実演。3部門共演のしやれた幕開けが、イベントへの期待感を高めた。

舞台は2部で構成。第1部は改元を祝し①邦楽部(三曲)の演奏と令和に関わる漢詩を題材にした書道部会員の揮毫②関連する万葉集の和歌と文芸部会員による短歌、川柳、俳句、詩

の朗読と揮毫③書道部と工芸部会員の書と染色のコラボ作品披露、解説をテンポよく展開。要

半年間に及ぶ宮城県芸術祭が9月20日、せんだいメディアテークで開幕した。宮城の芸術の秋を象徴する当協会のメイン事業。本年度、新たに公益財団法人仙台市市民文化事業団が加わり、令和初の祭典は8団体共催となった。芸術愛好家らが早々、市内の会場に足を運び、運営基盤の強化と共に内容充実の作品展、舞台公演を楽しんだ。

開会式には芸術祭会長兼実行委員長で当協会の雫石隆子理事長、名誉会長の一力雅彦、河北新報社社長のほか、宮城県、仙台市などの主催団体代表(代理を含む)が出席。雫

の書道部と文芸、工芸両部とのコラボは斬新で、芸術の幅の広さを誇る当協会の特長を鮮明にした。写真部がライブ等の映像を担当、客席後方からも迫力ある舞台を楽しんでもらった。

第2部は舞踊部と洋楽部の共演による『舞踊 くるみ割り人形』。「次代へ」を強く意識して今年入会の若手会員のほか舞踊部会員の3教室でバレエを学ぶ生徒らが、ピアノ伴奏に合わせ独創的な振り付けで華のある舞いを披露、未来への喜びを全身で表現した。

日本史の新たなステージを祝う「令和の讃歌」と、次代を生きた若者らの躍動感にあふれた洋舞に乗せて描く「希望の継承」。主題を体現した舞台は重厚にして軽やかで、本年度の芸術祭の統一テーマにふさわしい内容となった。舞台は予定の2時間ほどで終了。千人を上回る入場者にも好評だった。

舞台鑑賞に合わせて、5、6階で開催中だった華道展と書道展に足を運ぶ入場者もあり、イベントに込めた誘客の狙いが一定程度、達成されたようだ。

芸術祭開幕—— 華やかに彩り豊かに

トで華やかに開場した。

皮切りは華道展と書道展(9月20〜25日)。その後、工芸展、写真展・写真公募展、彫刻展・彫刻公募展、絵画展(公募の部)以上、27日〜10月2日、絵

画展(10月4〜9日)と矢継ぎ早。9月29日には日立システムズホール仙台で昨年度の音楽コンクール入賞者らによるガラコンサートが開かれ、音楽ファンらが「未来の演奏家」による鮮烈な響きに聴き惚れた。

秋本番の10月も芸術の錦で染め上げた。絵画展の後、13日、トークネットホール仙台での長唄演奏会、26日の東京エレクトロンホール宮城での文芸祭、輪王寺で13、20、27日の三週にわたる茶会などの催事が相次いだ。11月の音楽会、表彰式、年明け2、3月の音楽コンクールまで多彩なイベントが続く。

【華道展（9月20～25日）】
 出展は前期、後期合わせて64点。
 ほかにチャレンジ席を設け、8
 流派がいけばなデモンストレー
 ションを実施した。花の香りが
 漂い、五感で入場者を魅了した。



華道展



9月20日、共催8団体の代表がテープカットし、宮城県芸術祭が開幕した

至芸の発表 観客を魅了

第56回宮城県芸術祭

【テーマイベント（9月22日）】
 オープニング。華道部、邦楽部長
 唄、工芸部がコラボレーショ
 ン。長唄演奏を背に陶芸作家が
 手掛けた花器に生け花の実演を
 披露。風情豊かに幕を開けた。



テーマイベント・オープニング

【テーマイベント（同）第1部「令和讃歌」。書道、邦楽（三曲）、文芸、工芸、写真の5部によるコラボ。揮毫、朗読との共演、染色との共作、演奏と多彩な内容で新時代をたたえた。



テーマイベント・第1部

【テーマイベント（同）第2部。舞踊部と洋楽部が共演。ピアノ連弾を伴奏に、会員の指導を受ける若手バレエダンサーらが躍動、希望に満ちた次代（時代）への喜びを体全体で表した。



テーマイベント・第2部

【テーマイベント（同）席は瞬時に埋まり、立ち見も出る盛況ぶりだった。1部、2部で入れ替わりもあり、1000人ほどが堪能した形。当協会及び会員の底力を見せつけた。



入場者であふれたテーマイベント

【書道展（9月20～25日）】
 出展は6部門に285点。作品の幅は広く、会場は「墨跡の小宇宙」の趣。入場者を思索・探索の世界にいざなった。受賞者による揮毫会にもぎわった。



書道展

【工芸展（9月27日～10月2日）】
 出展は70点。展示を工夫し力作が映えた。25人の参加で一角に「秋の日の一部屋」と題した生活に彩る小品を集めたコーナーも開設。人目を引いた。



工芸展

【彫刻展（9月27日～10月2日）】
 出展は29点（うち招待作1点）。展示の配置に目を配った。定番的な裸婦像や動物のほか、映像と組み合わせた独創的な作品もあり、入場者を楽しませた。

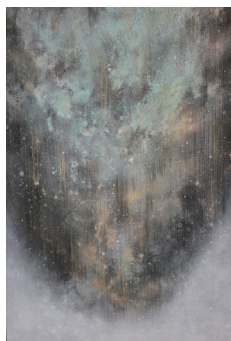


彫刻展

【彫刻公募展（9月27日～10月2日）】出展は5点。昨年は見送られており、確かな一歩。写真最高賞、宮城県芸術協会賞の受賞作品。数は少なめながら、ユニークな作品も寄せられた。



最高賞受賞作品



最高賞受賞作品

【写真展（9月27日～10月2日）】出展は93点。自然、人物、建物、祭り、風習…。長時間の撮影もいとわず、魂を込めた作品が並ぶ。切り口はさまざまながら、熱情がほとばしる。



写真展



ガラコンサート

【写真公募展（9月27日～10月2日）】出展は88点。総写真家時代を反映し、感性あふれる作品がそろった。写真は最高賞、宮城県芸術協会賞の受賞作。高校生の秀作も多数展示された。



最高賞受賞作品



絵画展

【絵画展（公募の部）（9月27日～10月2日）】出展は128点。昨年の104点を大きく上回り、意欲的な作品が並んだ。写真は最高賞、宮城県芸術協会賞の受賞作。色合いが魅力的。

【ガラコンサート（9月29日）】昨年度の音楽コンクール（本選3月）で入賞した「期待の星」20人（ピアノ8人、ヴァイオリン12人）が、受賞から半年の成長ぶりを披露。喝采を浴びた。

【絵画展（10月4～9日）】出展は昨年とほぼ同数の316点。大作、秀作が会場を埋め尽くした。構図や色使い、画材などで工夫を凝らした野心作が多く、入場者は足を止め見入った。

大内四郎さんを偲んで

執行理事（写真部） 佐々木 光 一



名誉会員 大内四郎 さんの6月26日、享年96歳で冥府に旅立たれました。

大内さんは、芸術協会の写真部創設に尽力され、初代の部主任兼理事を務められるなど、名実ともに宮城の写真界をけん引されてまいりました。

その功績に対し、宮城県文化功労賞、文部科学大臣賞を受賞されております。

鉄道病院の事務長をしていた当時から本格的に写真撮影を始めた元氣な方だっただけに、残念でありません。

親交の深かった部運営委員の梅津聡さんと墓所を訪ね、お別れをしてまいりました。

大内さん、長い間、ご指導ありがとうございました。

あなたが創られた写真部は、確実に次代へと受け継がれ、新たな枠組みによる公募展の実現を含め、大きな花を咲かせることでしょう。

高いつから見守っていてください。さようなら。 合掌

また、大和町主催の「まほろ

協会の未来

「若手」登場

会員の高齢化と減少傾向は、当協会が抱える懸案事項の一つ。キャリアを重ねた年長の会員が退く一方、新規会員の獲得がままならなくなれば、組織の維持すら危うくなる。新風を吹き込む次世代は、協会の未来そのものであり、更なる飛躍に向けた希望の光。各部に活力を与える「若手」に登場願ひ、加入の経緯や日頃の活動ぶりを中心に、今後の抱負、協会への期待などまで根掘り葉掘り、若々しい感性あふれる率直な思いを聞いた。



和の音色を響かせた佐藤亜美さんと将山さん

26歳で入会し、現在、46歳。運営委員として部を支える。常に「若手」に位置付けられ、精力的に活動を積み重ねる。

大崎市出身。「マンガ好き」が高じて高校から美術に没頭。

指導を受けた早坂貞彦理



理事長の推薦で、芸協の仲間に加わった。

高校の美術教師。生徒の指導に当たる傍ら、自然の

生命力を主題に「偶然に左右される」面のある抽象画の大作に挑む。具象と異なり、「制作過程で達成感を得にくい」が、苦しさも伴う思索の楽しさが心をとらえる。

高みへ連携も意識

絵画部（洋画）峰岡順さん（名取市）

ンが視野にある。「技量豊かな教え子が18歳に満たず、公募展に出せなかったことがあって」。芸術祭参加の基準にも目が向く。次代との接点を築く取り組みが充実しているように思う。

リポーンアート・フェスティバルに4回。創作と協会のありように思いをはせる。行動は軽やか。高み目指し、「垣根」を飛び越えるしなやかな思考が、芸術と組織の可能性の扉を開く。

モダンアート協会等にも所属。「学べることは多い」と言い、団体への加入が、制作動機にもなっている。個の活動に専念したがる若者の多さを残念がる。

高校生らとのコラボレーションが視野にある。「技量豊かな教え子が18歳に満たず、公募展に出せなかったことがあって」。

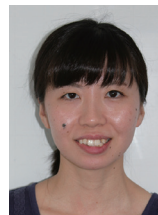
芸術祭参加の基準にも目が向く。次代との接点を築く取り組みが充実しているように思う。

リポーンアート・フェスティバルに4回。創作と協会のありように思いをはせる。行動は軽やか。高み目指し、「垣根」を飛び越えるしなやかな思考が、芸術と組織の可能性の扉を開く。

リポーンアート・フェスティバルに4回。創作と協会のありように思いをはせる。行動は軽やか。高み目指し、「垣根」を飛び越えるしなやかな思考が、芸術と組織の可能性の扉を開く。

会員の高齢化が進む協会にあつて、洋楽部は趣を異にする。平成生まれの若者が続々と誕生しているのだ。その中心的存在の29歳。輝く笑顔がまぶしい。

入会3年目にして、部の運営委員を務める。当然、最年少。期待の大きさがうかがえる。



音楽、楽器との出会いは小学4年の時。部活動でトランペットを担当、中学校からは「音色に魅せられて」、希望したクラリネットにのめり込んだ。

認知度を高めたい

洋楽部・最上陽子さん（仙台市）

入会によって「音楽の幅が広がった」実感がある。ガラコンサートでも楽団の一員として芳醇なハーモニーを響かせた。他部門とのコラボレーションにも大きな可能性が見えるという。

秋田県湯沢市出身。地元の高校から宮城教育大に進学し、同大大学院で音楽を専攻。指揮者、渡部勝彦執行理事の薫陶を受け

和風文化祭に厚み
県の事業に協力、訪台
連携促進へ確かな布石

台湾の台南市で宮城県の文化を紹介し、相互の交流促進を経済の活性化につなげる同市恒例の「和風文化祭」（宮城県協賛）が10月12日に開幕。当協会は「後援」の形で県に協力し、工芸品を紹介するテーマに沿って工芸部が作品を展示したほか、12、

13両日の開幕イベントに参加し、展示と舞台を通じて宮城の魅力のアピールに貢献した。

10、14日の日程で訪台。市郊外の文化施設であった開幕の催しには、理事の佐藤亜美さん、尺八奏者で弟の将山さん（父は皖山執行理事）と鍋田尚男工芸部副部長夫妻ら一行6人が臨んだ。邦楽演奏で舞台を彩った二人の実力は折り紙付き。急遽、駆

り出される形になったが、姉弟の息はぴったり。野外という厳しい演奏環境の下、繊細で深みのある和の響きを披露した。

鍋田副部長は当協会の要請で、自作の逸品を含め会員によるガラス、染織、陶芸の5作品を展示、監修する役を担った。

日本の文化を紹介する祭典は7回目、宮城県対象の本年度は12月22日までの開催。定款に即し、当協会が擁する芸術文化

た。演奏家を目指し、教職は志望しなかったというから、道を極める思いの強さは半端ではない。音楽教室で子どもたちを指導するほか、中学校、高校の部活動にも携わる。

もっと協会の認知度が高まっしてほしいと思う。「出演機会を増やして『見てもらう』『知ってもらう』ことに努めたい」。音楽仲間にも魅力を伝えることに心を砕く、その姿勢が頼もしい。

の素晴らしいさを広く知ってもらうとともに、県と互恵関係の構築を進めるため、参加を決めた。同市と交流を進める仙台市の協力もあった。遠藤信哉副知事に同行し、台南市長を表敬するなど懇親を深め、連携強化に向けて確かな布石となった。

第 56 回宮城県芸術祭受賞者（会員の部）

賞 名	部 門	作 品 名	氏 名
宮 城 県 芸 術 祭 賞	書 道 部	柳 宗 元 詩 (漢 字)	吉 岡 芝 耕 (仙台市)
	工 芸 部	彩 泥 鉢 (陶 芸)	馬 場 興 彦 (石巻市)
	写 真 部	空 へ	野 勝 司 (気仙沼市)
	彫 刻 部	凜	紺 井 靖 武 (塩釜市)
	絵 画 部 (日本画)	佇 む	土 屋 薫 (仙台市)
	絵 画 部 (洋画)	生 命 譜 (3・11)	渡 邊 昭 硯 (仙台市)
	文 芸 部	見 納 め の 花 (短 歌)	佐 藤 成 晃 (仙台市)
	書 道 部	春 は や く (か な)	黒 田 清 苑 (岩沼市)
	工 芸 部	Geological Glass (地質学的アプローチのガラス) (ガラス)	村 山 耕 二 (仙台市)
	写 真 部	大 空 に 向 っ て	鈴 木 久 雄 (仙台市)
宮 城 県 知 事 賞	彫 刻 部	布ガムテープ 2019-9 落花生	相 澤 オサム (仙台市)
	絵 画 部 (日本画)	見 集 む	数 本 冨 英 佳 (仙台市)
	絵 画 部 (洋画)	ひ と の か た ち	天 満 秀 人 (会津若松市)
	文 芸 部	愚 (詩)	渡 部 俊 慧 (仙台市)
	文 芸 部	稲 荷 横 丁 (短 歌)	佐 野 督 郎 (仙台市)
	文 芸 部	箱 鏡 (俳 句)	平 山 北 舟 (仙台市)
	文 芸 部	蕎 麦 の 花 (川 柳)	西 恵 美 子 (白石市)
	書 道 部	群 (少 字)	菊 池 慶 輝 (仙台市)
	絵 画 部 (日本画)	追 憶	武 地 美 枝 子 (仙台市)
	絵 画 部 (洋画)	受け継がれ行く、いのち	松 宮 榮 典 (仙台市)
河 北 新 報 社 賞	書 道 部	奏 で る (墨 象)	千 葉 四 帆 (仙台市)
	工 芸 部	飛 翔 (金 工)	も み や ま 尚 子 (美里町)
	写 真 部	夜 明 け の 花 園	佐 藤 節 子 (仙台市)
	彫 刻 部	こ こ ろ の か た ち	中 平 哲 夫 (仙台市)
	絵 画 部 (日本画)	或 る 日 の 庭	中 邨 圭 子 (仙台市)
	絵 画 部 (洋画)	野 に 咲 く	越 河 美 佐 江 (岩沼市)
	文 芸 部	銀 河 の 音 (俳 句)	石 母 田 星 人 (仙台市)
	書 道 部	陶 鑄 堯 舜 (篆 刻)	藤 野 秀 一 (多賀城市)
	工 芸 部	風 光 (陶 芸)	桑 原 リ エ (大崎市)
	絵 画 部 (洋画)	祈 ・ い だ く	佐 藤 美 栄 子 (仙台市)
宮城県教育委員会教育長賞	書 道 部	舞 い (近代詩文)	武 山 櫻 子 (気仙沼市)
	書 道 部	光 道 (少 字)	一 関 京 子 (仙台市)
	工 芸 部	悠 久 (木 竹 芸)	林 恵 美 子 (七ヶ浜町)
	絵 画 部 (日本画)	羽 音	富 樫 清 子 (仙台市)
	絵 画 部 (洋画)	鼻 息	山 形 牧 子 (登米市)
仙台市教育委員会教育長賞	書 道 部	寒 月 夜 (近代詩文)	木 村 笙 園 (大崎市)
	絵 画 部 (洋画)	ね こ の 行 方	菅 原 さ ち 子 (仙台市)
宮 城 県 議 会 議 長 賞	書 道 部	杜 甫 詩 (漢 字)	中 島 桃 沙 (仙台市)
	絵 画 部 (洋画)	街	山 口 優 子 (名取市)
仙 台 市 議 会 議 長 賞	書 道 部	天 啓 (墨 象)	一 條 紅 蕭 (涌谷町)
	絵 画 部 (洋画)	B a l a n c e - c	高 橋 順 子 (仙台市)
公益財団法人宮城県文化振興財団賞	書 道 部	左 思 詩 (漢 字)	船 山 常 松 (仙台市)
	書 道 部	た ま し い の 地 図 (近代詩文)	佐 藤 華 炎 (仙台市)
	書 道 部	コ ン パ ス (近代詩文)	小 嶋 カズ 子 (仙台市)
	工 芸 部	祈 り の 時 (陶 芸)	新 藤 睦 子 (仙台市)
	写 真 部	曼 茶 羅	海 老 名 和 雄 (仙台市)
	絵 画 部 (洋画)	広 く 深 く	鈴 木 雅 之 (大河原町)
	文 芸 部	唐 辛 子 (俳 句)	高 橋 彩 子 (涌谷町)
	書 道 部	大 槻 磐 溪 詩 (漢 字)	佐 々 木 鳳 堂 (大崎市)
	写 真 部	緊 迫 の 一 瞬	志 田 伸 一 (仙台市)
	絵 画 部 (日本画)	舞	阿 部 志 宇 (仙台市)
公益財団法人仙台市民文化事業団賞	絵 画 部 (洋画)	遮 断 機	遠 藤 啓 介 (栗原市)
	絵 画 部 (日本画)	自 然 の 光 明	菊 地 禮 蔵 (仙台市)
	絵 画 部 (洋画)	Natural disaster からの紹介	畑 中 良 二 (石巻市)
菅 野 美 術 館 賞	彫 刻 部	青 嵐	永 倉 香 名 子 (仙台市)
	書 道 部	劉 嗣 綰 詩 (漢 字)	板 橋 翠 苑 (仙台市)
門 伝 勝 太 郎 賞	絵 画 部 (洋画)	「 令 和 縄 文 人 」	安 達 秀 子 (仙台市)
	書 道 部	生 き て (近代詩文)	岩 崎 邦 彦 (大崎市)
宮 城 県 芸 術 祭 奨 励 賞	書 道 部	李 白 詩 (漢 字)	長 谷 川 青 澄 (仙台市)
	書 道 部	王 維 詩 (漢 字)	庄 司 清 香 (仙台市)
	書 道 部	朱 彝 尊 詩 (漢 字)	小 元 雅 香 (大崎市)
	書 道 部	ネ ブ ラ (墨 象)	佐 々 木 青 霞 (美里町)
	書 道 部	葛 原 繁 の 歌 (近代詩文)	天 野 白 扇 (石巻市)
	写 真 部	氷 鏡	青 木 威 世 男 (仙台市)
	写 真 部	栄 枯 盛 衰	庄 司 多 賀 雄 (岩沼市)
	絵 画 部 (洋画)	遠 い 日 の 記 憶	簡 野 寛 山 (大崎市)
	絵 画 部 (洋画)	花 (Ⅱ)	大 竹 幸 子 (仙台市)
	絵 画 部 (洋画)	イ リ ユ ー ジ ョ ン	大 西 ち い 子 (仙台市)
	文 芸 部	平 成 (川 柳)	大 島 文 庫 (仙台市)
	工 芸 部	紬着物「薄荷の花」(染 織)	横 田 美 和 (仙台市)

第 56 回宮城県芸術祭 絵画展（公募の部） 彫刻公募展 写真公募展 受賞者

部 門	賞 名	作 品 名	氏 名
絵 画 展（公 募 の 部）	宮城県芸術協会賞	景	佐藤健太郎（石巻市）
	優秀賞	夜明けの詩	山本政彰（仙台市）
	優秀賞	留まるものは何もない②	阿部正彦（気仙沼市）
	奨励賞	「マ リ ア ン」	岩井てる（仙台市）
	奨励賞	S O U N D - F r e e	垣内孝則（仙台市）
	奨励賞	悠久のライン	関谷登（富谷市）
	奨励賞	自画像「汝、命の記憶を風化させてはならぬ」	大内隆（松島町）
	奨励賞	融解する街	岩渕わか菜（富谷市）
	奨励賞	胡蝶の夢	佐藤結（仙台市）
	奨励賞	I w i s h	阿部汐夏（石巻市）
彫 刻 公 募 展	宮城県芸術協会賞	生まれるという行（為）	寺澤大和（福島市）
	奨励賞	よりそうかたち	掘宏美（仙台市）
写 真 公 募 展	宮城県芸術協会賞	朝露に濡れて	小檜山裕行（角田市）
	宮城県知事賞	おめ	佐藤昭夫（大崎市）
	仙台市長賞	宵の怪鳥	阿部長一（石巻市）
	河北新報社賞	ノスタルジイ	兼田トモ子（塩釜市）
	宮城県教育委員会教育長賞	地吹雪舞う	佐藤一之（塩釜市）
	仙台市教育委員会教育長賞	水揚げされたマカジキ	村上淳（気仙沼市）
	宮城県議会議長賞	夜明けの棚田	横田弘（塩釜市）
	仙台市議会議長賞	静かな休息	丹野寛志（仙台市）
	（公財）宮城県文化振興財団賞	r - e - n - k - e - i	宮崎哲（仙台市）
	大崎市長賞	ジ ョ ウ ビ タ キ	庄子源六（仙台市）
	優秀賞	アサギマダラ	石崎純（仙台市）
	優秀賞	冬の日の幻想	一條待子（仙台市）
	優秀賞	と き め き	黒澤八重子（仙台市）
	ニコイメーjingジャパン賞	弧峰赫映	檜森巽（仙台市）
	堀内カラー賞	若さいっぱい	木村文武（多賀城市）
	tcd東北カラーデュープ賞	いざ!!!	宮崎遼（東京都港区）

第 6 回文芸作品公募入選者

一般の部			ジュニアの部		
ジャンル	賞 名	氏 名	ジャンル	賞 名	氏 名
詩	最優秀賞	西城健一（気仙沼市）	詩	優秀賞・宮城県詩人会会長賞	中村天結（長町中）
	優秀賞・宮城県詩人会会長賞	木村麻衣（仙台市）		佳作	阿部ひよ理（長町中）
短歌	最優秀賞	山内東一（大和町）	短歌	最優秀賞	若生夕楓（長町中）
	優秀賞・宮城県歌人協会賞	志賀努（仙台市）		優秀賞・宮城県歌人協会賞	丹野蒼士（岩沼西中）
	優秀賞	安達英雄・木村麻里衣（仙台市）		優秀賞	荒川七夕佳（東長町小）・きくちりょうたろう（連坊小路小）
	佳作	江口昭太郎・安部律・平間孝雄・金澤綾音・田中悠也（仙台市）		佳作	市川拓海・高橋七望・一条拓真・氏家奈緒・阿部和奏・阿部渥生・阿部優斗・高橋蒼・伊藤光輝・小野渚・早坂春乃・岡沼未龍・菅野遥香・湖上絵胡・蝦名里香・山崎里緒・石山太智・菅井渉彦・江部莉緒・佐藤凜佳・今野玲奈・後藤緋李・小野寺登子（岩沼西中）・早坂信太（金剛沢小）・あべゆうま・たむらあかり・じょうあかり・鈴木那幸・千葉遥輝・降矢柚葵（上野山小）・菊池笑叶（太白小）・千葉翼・昆野莉桜・石田空・福留裕太郎・佐藤彩・元井幸・川本日向子・永谷香帆（長町中）・かわいゆり子・まつおかそら・みやざきひかり・庄司昊生・おかざきりこ・宮崎遥（東長町小）・瀬川茜（連坊小路小）
俳句	最優秀賞	田村恵子（仙台市）		最優秀賞	近藤快成（長町中）
	優秀賞・宮城県俳句協会賞	斎藤洋子（気仙沼市）		優秀賞・宮城県俳句協会賞	茂木麻緒（長町中）
	優秀賞	松澤ふさ子・佐々木さよ（仙台市）		優秀賞	山本和奏（長町中）
	佳作	小幡つや子・前田礼子・屋代英雄・川原友記子・田村恵子（仙台市）・佐々木和子（塩釜市）・熊谷正子（気仙沼市）・高村龍彦（大和町）・木村螢雪子（大崎市）・久道さ江子（利府町）		佳作	稲村玲子・小形愛美（白百合学園中）山本和奏・和田紘季・蜂谷大空・林叶華（長町中）
川柳	最優秀賞	尾方久子（仙台市）	川柳	最優秀賞	杉野紗南（角田小）
	優秀賞・宮城県川柳連盟賞	田村富夫（仙台市）		優秀賞・宮城県川柳連盟賞	仁多見煌人（北仙台小）
	優秀賞	菊地忠義・柴口賢一（角田市）		優秀賞	梅原明日香（田子中）
	佳作	梅原拓磨・菅原弘子・國分郁子・阿部みつ・浅野夏希（仙台市）・木立時雨（石巻市）・平間大恵・高橋正衛（白石市）		佳作	工藤咲良・石田葵美海（大塩小）
エッセー	最優秀賞	高橋千賀子（栗原市）	エッセー	最優秀賞	梅原明日香（田子中）
	佳作	間英雄（仙台市）		佳作	工藤咲良・石田葵美海（大塩小）

宮城県芸術選奨に2氏

美術・日本画の三浦、書道の田村両氏
長年の創作活動に栄誉三浦長悦氏
美術（日本画）大崎市

河北美術展河北賞など同展の入賞多数。院展の入選もたびたび。84歳。創作意欲は衰えず、各展に毎年、佳作の発表を続ける。風景画を手掛け、対象と誠実に向き合い、暮らしの気配も感じられる作風は魅力的。知性にもじむ。絵画部運営委員。

田村政晴（正晴）氏
美術（書）岩沼市

河北書道展など各種公募展で入賞、入選多数。本年、東京で節目の書展を開催し、薄墨から濃墨まで多彩な墨の表現方法を披露、一段と評価を高めた。74歳。当協会参事。書道部運営委員。外部の団体でも多くの要職を担い、後進の指導にも精力的に取り組んでいる。

寄付金税額控除の対象法人に

賛助会員呼び掛けの弾みに

当協会は9月6日、「寄付金控除」の対象法人に認定された。宮城県が申請の内容を審査し、同日付で基準を満たしていると判断した。有効期間は5年間（令和6年9月5日まで）。

寄付金控除は、国や地方自治体、さらに公益を目的とする事業を行う団体（公益社団法人な

ど）に寄付金（特定寄付金）を支出した場合、所得控除や税額控除を受けられる制度。当協会而言えば、賛助会員として協会の運営資金面を支えていただいている団体（法人）、個人が所得もしくは税額を控除できるもので、資金を提供する賛助会員は一定のメリットを得られる。有効活用を努めて、さらなる支援者獲得の弾みにしたい。

令和元年度の宮城県芸術選奨

受賞者が決まり、11月2日に県庁舎内で授賞式が行われる。受賞者は芸術選奨7人、同新人賞3人。当協会の会員、美術（日本画）の三浦長悦氏と、美術（書）

思いもよらない賞をいただき大変驚いています。洋画から日本画に転じて約30年。

ひたすら風景を描いてきたご褒

美でしょうか。最近10年ほど、朽ちいく古木に魅かれ、果樹園の作

地道に風景画追求

今後も老いを受ける立場で言えば、それぞれが描く個を確立してほしい。常に「脱皮」を重要と考

「個」を輝かせたい

えており、今後まだ、自分が変わることを創作の中で実験、実現してみたいと考えています。

思いがけない受賞に驚くやら、うれしいやら。今年、書成会創設30年の区切りとして東京で開いた記念の個展

菅野美術館賞

受賞作品展開催へ

菅野美術館（塩釜市）は、宮城県芸術祭の彫刻展で提供してきた「菅野美術館賞」の受賞作品を集めた受賞者展を開く。同賞の創設10年になるのを記念し、受賞者を紹介する。開催期間は12月中旬から2週間を予定。受賞作の保管状況等が不明のため、作品の実物もしくは写真パネル

と最新の作品を基本に展示する。彫刻の教育普及を図るのが狙い。彫刻への関心を高め、彫刻を知るきっかけづくりを目指すという。展覧会に先立ち、11月中旬から12月上旬に有識者らによるトークイベントを開く。年明けの1・2月、宮城県美術館所蔵の子どもをモチーフにした作品を中心とする「佐藤忠良展」の開催も計画している。

第8回全国やきものフェア
呈茶とお菓子でもてなし

（一財）みやぎ産業交流センター、河北新報社など主催の「第8回全国やきものフェアinみやぎ」が7月11～15日、夢メッセみやぎで開催され、当協会茶道部の5流派が茶道の普及促進の一助として協力した。

全国の主要産地から150の窯元・作家が出展。お気に入りの逸品を求めるやきものファンらが大



「くつろぎの一服」でもてなした

勢訪れ、会場は熱気に包まれた。お茶に絡む作品も多数展示された。茶道部は例年同様、会場の一角に茶席コーナーを開設し、表千家、大日本茶道学会、江戸千家、武者小路千家、裏千家の各流派が日替わりで、「くつろぎの一服」を提供。呈茶とお菓子で来場者をもてなした。

好天に恵まれ大好評
文学散歩・秋田の風土と文人探訪

10月2日旅の始まりは、全国名水百選のひとつ秋田県美郷町の「六郷湧水群」の散歩から。湧水に氷河期の淡水魚の生き残りと言われる通称ハリザッコの魚影を探し歓声が上がった。ニテコ名水庵の昼食は、絶品の稲庭素麺。あきた文学資料館では、名誉館長の「むのたけ」に就いての講演を聞く。その後、秋田県立博物館に移動、菅江真澄資料センターで、真澄の足跡や著作の解説を受けた。その後、真澄の逗留した旧奈良家。最後は、秋田県立美術館。藤田嗣治の大壁画「秋田の行事」を学芸員の解説を受け、鑑賞幅の広がるのを感じた。宿泊は秋田温泉さとみ。

2日目(3日)は秋田市立中央図書館からスタート。第一回芥川賞受賞者石川達三記念室を見学。横手市増田まんが美術館は、漫画の歴史と作家の原画の展示があり、漫画世代には外せ



六郷湧水群を見学

ないポイント。原画の美しさ、丁寧さに感心させられた。昼食は創業150年の料亭石川。

羽後町の西馬音内盆踊り会館では、紹介映像を鑑賞。会館にはたくさんの方の端縫いの衣装が展示されていて、美しく心のこもった仕事に圧倒される。その後、小野小町伝説を伝える小町堂を訪ね、小町の歌碑を鑑賞。帰途2箇所の道の駅に寄りながら仙台へ。参加者は41名。

新入会員

【書道部】菅井俊也 岩沼市、茂泉容子 松島町、茂泉和丈(光雄) 松島町、【洋楽】遠藤明子 柴田町、高橋茉莉奈 仙台市泉区【文芸部】佐藤絃子 仙台市泉区

事務局日誌

会務報告

【第2回理事会】8月2日
・正会員の入会承認について

後援

- ☆第27回宮城独立美術展 8月24～28日
- ☆第38回新芸術東北展 9月6～11日
- ☆第39回新芸術東北展 9月10～29日
- ☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日
- ☆白石市古典芸能伝承の館「碧水園」 10月1～6日
- ☆王希奇「一九六四」宮城展 10月1～6日

宮城県美術館
☆第49回宮城書芸院書展教育部展 10月4～6日

大崎市民ギャラリー
☆第32回みやぎ発明くふう展及び第23回みやぎ未来の科学の夢絵画展 10月8～12日

東北電力グリーンプラザ
☆絵画特別展「交響のソロ」11人の作家に見るみやぎ 美術のいま 10月9日～12月1日

カメイ美術館
☆華 日本詩歌の会第19回演奏会 10月13日

宮城野区文化センター
☆レバートリーコンサート7特別編 10月13日

仙台市戦災復興記念館
☆玄穹社選抜展 10月16～20日

東北電力グリーンプラザ
☆奥山和子 日本画展Ⅱ―卒業記念 10月17～22日

☆第63回仙台三曲協会定期演奏会 10月20日

トクネットホール仙台
☆第14回桃源書展 10月26～29日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

宮城県美術館
☆平成30年間の制作 畠山信行作 品展 11月1～6日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

☆第10回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台 9月28日

けやきの譜

昭和29年に開園した仙台市野草園に、当時としては珍しい芝生の広場があった。当初、芝生は土足禁止だったが、数年後には解放された▼樹々が今のように高く、繁つていなかったのが、野草園から大和町の七ツ森が一望できた。このことが、野草園への道筋に原阿佐緒の歌碑を建立する要因のひとつとなった。と、碑に刻まれた歌を諳んじながら、老名譽園長がいまや幻の風景となった往時の野草園の物語を語ってくれた▼ブナ林のなかの谷筋や藪を歩いていると、再び目にすると思われない自然の造形に出合うことがある。紅葉の中で朽ちていくものと誕生するもののドラマが、歳月をかけて静かに演じられている。人の手が造り出した野草園の幻の風景もまた同じだ。一人の人間のドラマは、必ず誰かの記憶にとどまる。それは存在の根源に関わる問題だ▼宮城県などを10月12日から13日にかけて台風19号が襲った。大雨で河川の氾濫と堤防の決壊で甚大な被害が生じた。被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。(英)